

MORES® CLUB

2025
Early
Summer
VOL.03

information

モレスからのお知らせ


昨年、ご好評いただいた芦屋サマーカーニバルの
「モレスシート」に、今年の夏もご招待します!!



昨年の第46回芦屋サマーカーニバル(2024年7月撮影)

第47回芦屋サマーカーニバル「モレスシート」 お食事付きのお席に100名様をご招待

芦屋の夏の風物詩「芦屋サマーカーニバル」は、今年は7月26日(土)の開催です。芦屋浜の夜空を美しく彩る花火ショーを満喫いただけるお席「モレスシート」を昨年に引き続き、今年もご用意しました。モレスからのささやかな夏のプレゼントです。

 詳細は公式Instagramで!

第47回芦屋サマーカーニバル「モレスシート」の詳細や応募方法は公式Instagramにて、決まり次第お知らせいたします。この機会にぜひフォローをお願いします。



法律・税務・ファイナンシャルプランなど
ご入居後の様々な問題に対応するご相談窓口を設置しております。

法律・相続・税務 相談窓口

ご入居後の住宅ローン控除や取得税などの税金相談、権利関係や近隣問題などの相談、相続に関する法律や税務の相談など、ご自宅の不動産にまつわる様々な課題を解決する相談窓口を設けています。



FP (ファイナンシャルプランナー) 相談窓口

ご転職やお引越、住宅ローンの借り換えや一括返済など、ライフプランや資金計画が変更となった場合には、ファイナンシャルプランの見直しが必要です。モレスでは、新築時と同様に、専属のファイナンシャルプランナーによる相談をお取り次ぎしています。



Recruit

阪神間のデザイン住宅を手掛ける「建築デザイナー」募集!
「お客様の理想を叶える家づくりをしたい」そんな想いのある方、私たちの新しい仲間になりませんか?

詳しくはこちらを
ご覧ください



MORES®
FOR FUTURE HOME

お電話でのお問い合わせ (10:00~18:00/火・水定休)

0798-26-0100

〈公式WEBサイト〉

モレス

検索



〈フェイスブック〉



〈Instagram〉



〈X〉(旧Twitter)



〈ライン〉



〈YouTubeチャンネル〉



株式会社モレス 〒662-0917 兵庫県西宮市与古道町1番13号

Copyright © 2024 MORES CO., LTD. All Right Reserved.

Dear Nishinomiya

西宮市100周年、おめでとうございます。



このたび、西宮市が令和7年4月に市制施行100周年を迎えられましたこと、心よりお祝い申し上げます。

西宮は、海と山に抱かれた美しい自然環境と、阪神間を代表する充実した都市機能を兼ね備えたまちです。落ち着いた住環境、豊かな文化、そして充実した教育環境が整う理想的な「文教住宅都市」として、多くの人々に愛されてきました。

また、西宮の人たちは、歴史や伝統を大切に守り育みながらも、時代に先駆け、新しいことに挑んでいくフロンティア精神に満ちています。

私たちモレスは、これまで住まいづくりを通して西宮の皆さまの暮らしに寄り添ってまいりました。これからもこのまちの未来とともに歩み、皆さまの心地よい日々を支える存在であり続けられるよう、努めてまいります。

次の100年も、西宮市がさらなる輝きを放ち、すべての市民の皆さまにとって、いっそう魅力溢れるまちとなりますように。モレススタッフ一同、心より願っております。

暮らし彩る
歳時記
03

夏の到来を知らせる 西宮神社の「御輿屋祭」



〈写真提供/西宮神社〉

御輿屋祭の伝説

西宮鳴尾の漁師が漁をしていると、網に御神像が掛かりましたが、海に戻します。今度は和田岬辺りで網を入れると、再び同じ御神像が掛かりました。驚いた漁師は像を持ち帰り祀ると、「西の方に良き地があるのでそこに移りたい」とのお告げを受け、村人とともに出発。途中、ひと休みされたえびす様が居眠りをされ、困った漁師が神様のお尻をひねって起こし、さらに西へ進んで現在の西宮神社の地に落ちて着かれたと伝わります。このひと休みの地が御輿屋跡地といわれています。

目次

contents

- 02 西宮市100周年、おめでとうございます。
- 03 名建築を訪ねて
Vol.03 国登録有形文化財
武庫川女子大学 甲子園会館(旧甲子園ホテル)
【兵庫県 西宮市】
- 09 モレスの住まい、モレスの人
#003 西宮市 M様邸
家族時間を楽しむ
大人の基地
- 15 NEW VISION Meeting
モレスの「これからの住まいづくり」
についてお話しします。
- 19 SPECIAL SERIES Vol.01
浜芦屋町プロジェクト、始動。
- 21 MORES TOWN INFORMATION



MORES® CLUB

2025 Early Summer VOL.03

今号の表紙を飾るのは、兵庫県の重厚感と開放感が織りなす住まい。透かし積みのレンガスクリーンを採用した存在感のある外観の内側は、計算された採光・照明計画で光と影が暮らしを優しく包みます。2階のLDKに設けられた大開口からは、広大な空と美しい街並みを一望できるプレミアムな一邸です。

モレス公式サイトで詳しくご紹介しています



名建築を訪ねて

モレスが目指す建築の理想を、名建築を訪ねるシリーズ。

第3回は、阪神間モダニズムの貴重な遺産「武庫川女子大学 甲子園会館」です。

西宮市100周年をお祝いして

本誌がどうしてもご紹介しなかった建物、

それが「武庫川女子大学 甲子園会館」です。

1930年、当時の阪神電鉄により

「甲子園ホテル」として竣工したこの建物は

その贅沢で品格あるたたずまいから

関西の迎賓館的な役割を担い

「東の帝国ホテル、西の甲子園ホテル」と

並び称されるほどの名声を博しました。

数々の思い出が刻まれた優雅な建物は、

武庫川女子大学に継承され、再三の修復作業によって

当時の美しい表情を今に伝えていきます。

西宮市の貴重な遺産であるこの建築の魅力を

皆さまに感じていただければ幸いです。



国登録有形文化財

Vol. 03 武庫川女子大学 甲子園会館

(旧甲子園ホテル)

【兵庫県 西宮市】

前身は、阪神電鉄が経営するリゾート施設・甲子園ホテル。地上4階・地下1階の建物を彩るのは、石川県産の日華石と特注のタイル・瓦、そして斬新な和の意匠。フランク・ロイド・ライトの愛弟子、建築家・遠藤新(えんどう あらた)の設計で日本でも数少ないライト式の建物として、多数の見学者が訪れる。



(甲子園ホテル 1930年撮影)



南側テラスから庭園をのぞむ上田。大きな庇の上には、打出の小槌の浮彫りが並び、周辺の壁面はさまざまな特注タイルや日華石で飾られている

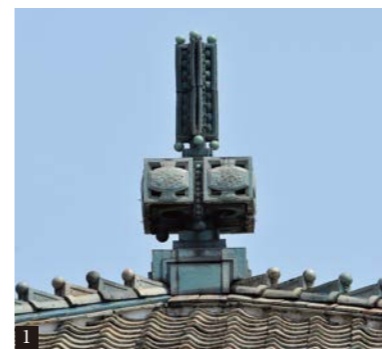
重厚さと優美さを併せ持つ 左右対称のフォルム

JR「甲子園口」から南へ約10分。西宮七園(※)時代の面影を残すお屋敷街の一角に「武庫川女子大学 甲子園会館」がありました。かつて「甲子園ホテル」と呼ばれた、阪神間モダニズムの貴重な遺産です。広い正門から前庭に進むと、風格漂う建物が出たりとたたずみます。訪れたモレス設計部のデザイナー・上田陸(うへだりく)が、その美しさに感嘆します。「左右対称で重厚な建物の威厳を醸しながら、優しい優雅さがある。建築家の力量ですね」

案内役の甲子園会館・平野義典さんによれば、この建物の建設を主導したのは、帝国ホテルの元支配人・林愛作(はやしあいさく)と建築家・遠藤新。いずれも20世紀建築の巨匠、フランク・ロイド・ライトに多くを学びました。水平ラインと垂直ラインの対比が美しい外観は、その象徴といえます。

中に入ると、重厚な柱とモダンなガラスパネルのあるロビー。そこを抜けると、庭園に面した明るいテラスが現れます。「どの壁面にも柱にも丁寧な装飾が刻まれていますね。今の時代では、技術的にも資金的にも難易度が高い」と上田。当時の建築家と職人たちの丁寧な仕事ぶりに、改めて感銘を受けたようです。

(※)大正から昭和初期の「阪神間モダニズム」時代に、西宮市内に誕生した7つの高級住宅地、「甲子園」「昭和園」「甲風園」「甲東園」「甲陽園」「苦楽園」「香榎園」の総称



1 甲子園会館の瓦屋根の頂点を飾る「打出の小槌」の意匠。打出の小槌の持ち主「大黒天」は、主神の「えびす大神」とともに、地元・西宮神社で厚く信仰される福の神であり、それが会館の随所に打出の小槌が飾られている理由だという説もあります(写真提供:武庫川女子大学)



2 南側テラスの柱に刻まれた波と水玉の意匠は、曲線を多用した丁寧なデザインで、石とタイルで構成されたこの建物に、柔らかな印象をもたらしている



3 南側外壁を飾るレリーフは、円・ひし形・水玉模様などの精緻な幾何学文様で構成されている。レリーフを研究した大学院生によれば、当時の抽象画家・カンディンスキー(※)との類似点があるという(※)カンディンスキー(1866-1944)は、ロシア出身の画家で純粋抽象絵画の先駆者

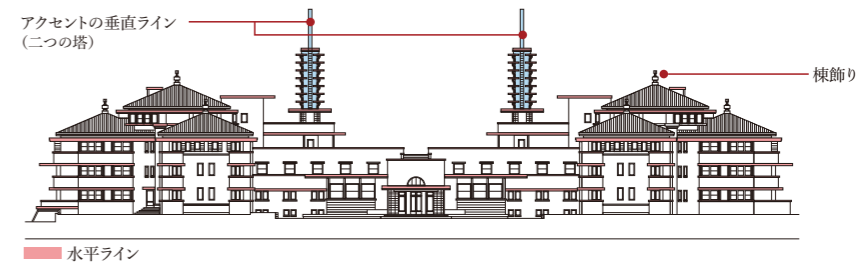


仕事中のフランク・ロイド・ライト(座っている人物)を見守る、右から工学士・伊藤文四郎と遠藤新。左端に立っているのは、ライトの息子、ジョン・ロイド・ライトと思われる



池のある庭園越しに望む甲子園会館の南面。かつてこの池はもっと広く、舟遊びも楽しめたという

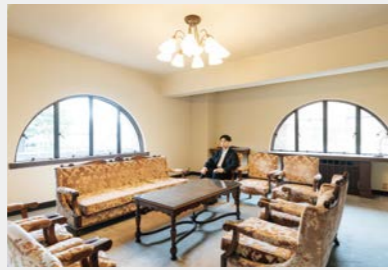
北立面図



現在の甲子園会館の北立面図。幾重にも連なる建物の水平ラインを、2つの塔の垂直ラインが引き立てていることがよく分かる(図版提供:武庫川女子大学)

半円形の窓が美しい応接室は
林愛作の強い要望で生まれた
かつてのカードルームだった

甲子園会館の2階中央にある小ぶりな応接室は、もともとブリッジやボーカーなどを楽しむためのカードルーム。当初の設計にはなかったのですが、「欧米のホテルには必ずある」という林愛作の強い主張で急遽設けられました。周囲より低い床と低めの天井。半円形の窓に囲まれた空間は、隠れ家のような心地よさ。米国生活が長く、海外ホテルの事情に詳しかった林ならではの隠れた名空間です。



現在の応接室の全景。残念ながらホテル時代の調度品や照明などの資料は残っていない



応接室の三方に設けられた半円形の窓には、当時のアール・デコの影響が感じられる



会館正面側の2階テラス。新婚旅行で甲子園ホテルに宿泊された高松宮ご夫妻はこの場所に立ち、祝いに集まった住民たちに応えたという

▶旧バーコーナー（現アートショップ）

会館1階にある旧バーコーナー（現アートショップ）の見どころは、床を彩るさまざまなタイル。その多くが、大正・昭和期に「美術タイル」として全国に知られた「泰山製陶所（たいざんせいとうしよ）」製です。興味深いのは、釉薬などの焼け具合を見るテストピースらしき物がかなりの割合で含まれていること。遠藤たちが、いつ・どのようにしてこれらを手に入れたのかは、甲子園会館の歴史の謎の一つです。



旧バーコーナーの全景。窓辺には、復元されたホテル時代のイスが並ぶ



暖炉そばのタイルは、ホテルの竣工年「1930」を表している



市松模様の天井が美しい西ホール（旧バンケットルーム）。1936年の大阪タイガース（現・阪神タイガース）激励会では、球団歌「六甲おろし」が初披露されたという

人々の大切な記憶とともに生き続ける
貴重な建築遺産

テラスから屋内の西ホール（旧バンケットホール）へ。かつて地元経済界のパーティーや結婚式なども開かれた、開放的な空間です。特色ある意匠の数々はライト建築のコピーではない遠藤の独自性を示すものと、平野さんは指摘します。

甲子園会館では、古い資料の収集にも努めています。その中には「ここで両親が結婚式を挙げた」などの逸話も多いとか。そうした物語が詰まった建物こそ真の名建築だと思えます、という平野さんの言葉に、上田も深く同意します。

「建築が人々の思い出と愛着のよすがとなり、それがまた建築の生命をつなぐ。この建築は、本当に幸せですね」

数々の記憶が刻まれたこの建物は、今なお現役です。同大学建築学部の教室として活用されているからです。

「うらやましいですね。建築を学ぶ上で大切な、よい空間を全身で感じる機会が、ここでは身近なのですから」という上田の言葉に実感がいもります。

私たちも人々の記憶に刻まれる空間をつくり続けていかなければ、と語る上田とともに、西宮の街の遺産というべきこの会館を後にしました。

JR神戸線
JR「甲子園口」駅
新堀川
新堀川
甲子園会館
甲子園会館
武庫川
武庫川
国道2号線
武庫川女子大学
上甲子園キャンパス

武庫川女子大学 甲子園会館
〒663-8121 兵庫県西宮市戸崎町1-13
TEL:0798-67-0290（見学受付専用ダイヤル）
※受付時間は祝日を除く月～土、10:00～16:00
URL: <https://www.mukogawa-u.ac.jp/~kkcampus/>
※見学については、甲子園会館のホームページをご覧ください

甲子園会館
（公式ホームページ）

JR神戸線「甲子園口」駅より
徒歩10分



上空から見た甲子園会館の全景。かつてはすぐそばを武庫川が流れ、その豊かな水と緑が景観を彩っていたという（写真提供：武庫川女子大学）



- 1 西ホール南側の空間は、ライトからも「洞窟のようで素晴らしい」と評価された（写真左：甲子園会館／平野 義典さん、写真右：株式会社モレス／上田 陸）
- 2 玄関ロビーの西側には、澄んだ水音を奏でる泉水がある
- 3 泉水の上部の石鉢に刻まれた打出の小槌の意匠



- 4 冬至の日の朝に泉水の正面を照らす太陽光は、建築家が仕掛けた遊びの一つ（写真提供：武庫川女子大学）
- 5 泉水の上部を照らすシェルの照明器具は、遠藤自身のデザイン

名建築を訪ねて Vol.03 | 訪問した人 株式会社モレス 上田 陸

今回、武庫川女子大学 甲子園会館（旧甲子園ホテル）を訪れたのは、モレスの建築家である上田 陸。ファッションが着る人を表現するように、住む人の個性や興味性を表現し、長く愛着に応え続ける住まいづくりを目指している。

株式会社モレス
（公式ホームページ）

家族時間を
楽しむ
大人の基地

モレスの住まい、
モレスの人

#003
西宮市 M様邸

明るい日差しが降り注ぐ階段室を降りるご主人。
大きな窓の向こうはガレージになっており、
陽光を浴びた愛車が美しく輝く。



2階から眺めた階段室と吹抜。この空間があるおかげで、どこにいても家族の気配が伝わる



2階リビングでつろぐご夫妻。右手奥に、一部が吹抜となったテラスが見える

心地よい 光に満たされた 暮らしの舞台

今回ご紹介するM様邸があるのは、昭和初期から高級住宅地として知られた甲子園。阪神本線「甲子園」駅の北側に広がる閑静なお屋敷町の一角です。

グレー系の長尺タイルを張り込んだ外観は、二見寡黙な印象です。しかし、玄関から中に入ると、そこには豊かな外光に包まれた伸びやかな空間が広がっています。これは「光のさまざまな表情を楽しめる空間にしてほしい」というご夫妻の要望によるもの。とりわけ降り注ぐ光がガレージの愛車に反射する様子は、ご主人のお気に入りのシーンなのだとか。

奥様もまた、家族が集う2階リビングを明るい空間にすることを望んでおられました。そこで青空に通じるテラスを南側に設け、その隣にリビングを配置。テラスに降り注ぐ光は、周囲を取り巻く大型のガラスサッシを通して、室内全体を明るく照らします。テラスの一角には1階に光を送り込む吹抜が設けられ、玄関に明るい日差しを招きます。

さらに外壁に設けられたスリットも、光を活かすための工夫。例えば2階テラス外部にあるスリットは、昼は爽やかな陽光を室内に取り入れ、夜はリビングの光を優しく外に伝えます。

「夜、駅から歩いて帰ってくると、このスリット越しの光が優しく出迎えてくれる。それを見るたびに、ああ帰ってきたな、と感じるんですよ」



1階玄関から見た階段室と吹抜。階段には、光も視界も遮らないスケルトン式を採用



スリットのあるバルコニーは、外に閉じ内に開かれたこの住まいを象徴する場所

時代や暮らしの変化に 柔軟に因應る ガジェット※のような住まい

M様邸の設計に当たって、ご主人がこだわったのは「可変性」でした。なぜなら、家族の暮らしのスタイルは、ずっと同じままではないから。時代の変化にあわせて、また時々の好みに応じて、さまざまに変わっていくものです。そうした時代や暮らしの変化をしなやかに受け止めて柔軟に対応できるガジェットのように、住まいづくりを楽しみたいというのが、ご主人の要望でした。

※「ガジェット」は、英語の "gadget" から来た言葉で、小道具や小物を意味する言葉です

この発想は、今までにない設備や意匠の採用につながりました。例えばリビングのシャンデリアは、照度や光の色を自由に換えられるタイプに。リビングのソファやワークルールの家具も、その時その時の必要に応じて、高さや形態を柔軟に調節できます。また、外壁タイルには、あえて経年変化を楽しめるタイプを採用。歳月につれて変わってゆく表面の色彩や風合いが、外観の味わいを層深めてくれます。

こうした可変性へのこだわりが最も反映されたのが、住宅の基礎です。実は今回のM様邸の建設では、事前の地盤改良工事が必須。通常なら地面に複数の穴をあけ、そこに杭となるコンクリートを流し込みますが、ご主人はあえてこの工法を選ばれませんでした。

「将来、子どもがこの家を建て替えたいと思ったとき、基礎杭の撤去から始めないといけない。それは経済的にも環境的にも負荷が大きいと感したのです」

代わりにご主人が選ばれたのがエコジョウ工法でした。これは、コンクリートの代わりに天然砕石を使って地盤力を確保する新技術。将来新たな建物をつくる場合も、砕石を埋めたままでも対応できるので、ムダがありません。

「モレスさんにお願したら、とにかくやってみましょう、と。施工会社も少なく、いろいろ苦労されたと思いますが、満足していく結果となりました」



お子様の部屋は数寄屋風の違い棚がアクセント。もともと弁護士志望だったお子様は、最近、建築家を志望しているという

外側から見たバルコニーのスリット。夜は屋内の光を優しく外に伝える



正面から見たM様邸。ムダのない寡黙なたたずまいが、街並みの中でひととき存在感を放つ

モレス公式サイトで詳しくご紹介しています



「いわば10年越しの恋のようなもの。今回、それがやっと実ったわけです」
 実際の家づくりのプロセスも、モレスとの「恋」を深める力になりました。特に、担当者も幾度も重ねた打合せの数々は、お二人の印象に強く残っているそうです。

「エコジョウ工法や折上天井がいい例ですが、こちらが何か新しい要望を出すと、徹底的に検討してくれる。その上で実現できそうなものは、限界ギリギリまで挑んでくれます。だからといって何でもイエスの御用聞きではなく、ダメなものにはダメとはつきり言ってくれます。この対応は気持ちよかったですね」
 「ご主人が「共感力」と呼ぶモレスの姿勢を、正面から受け止めてくださったのが、ご主人と奥様とともに打合せに参加された当時中学生になるタイミンクの息子さんでした。日本の歴史が大好きというご本人のご希望は、和テイストの自室を持つこと。担当者も真剣に打合せを重ね、ご希望に沿ったプライベート空間が完成



しました。
 ご家族のさまざまな思いを盛り込んで誕生したM様邸。高い自由度と可変性を備えたガジェットのようなこの家を、ご主人は「大人の基地」と言われます。
 「あれもしたい、これもしたいという無理難題も含めて、家族の希望をここまで活かしてもらえたのは、モレスさんの共感力のおかげ。今は全員がこの住宅を楽しんでいますよ」

いわば10年越しの恋を 実らせた家づくり

「エコジョウ工法や折上天井がいい例ですが、こちらが何か新しい要望を出すと、徹底的に検討してくれる。その上で実現できそうなものは、限界ギリギリまで挑んでくれます。だからといって何でもイエスの御用聞きではなく、ダメなものにはダメとはつきり言ってくれます。この対応は気持ちよかったですね」

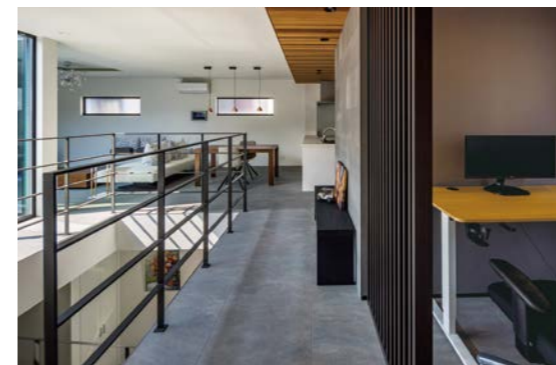


木調の天井で緩やかに分けられたキッチン(写真手前)とリビング。奥様はここからの眺めがいちばん気に入っているという

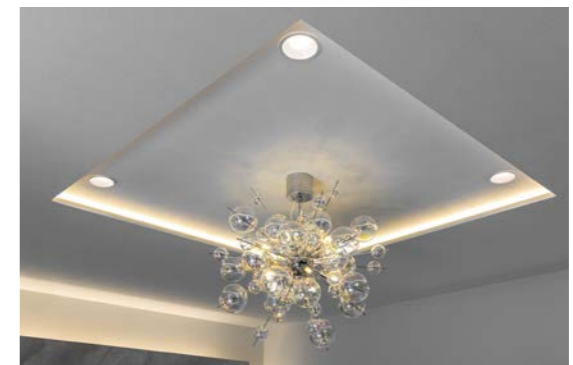
緩やかにつながる空間が 家族の気配を伝える

M様邸のもう一つの特色はその空間構成です。お二人のご要望は、1階・2階を分離せず、全体が緩やかにつながったキューブ(立体)としての住まいを、というものの結果、通常は住宅の隅に置かれがちな階段室周りを、あえて中央部に配置する設計が採用されました。
 「得てして、機能性のみが重視されがちな階段室周りに、もっと積極的な意味を持たせたかったのです。おかげで子どもが帰ってきて、すぐに分かる家になりました」
 同様の発想は、天井の間接照明と内装材の違いだけで緩やかに分けられたリビングとキッチンや、ドアのない2階のワークスペースにも活かされています。
 また、ディテールへのこだわりも見どころです。例えばリビングの折上天井は、工事の難しさから一度は断念したもの、ご主人の強い要望で実現に至りました。
 さらに、IT業界でお仕事をされているご主人の要望で実現したのがスマートホーム照明やお風呂などをリモートで操作できるほか、大容量配管による宅内ネットワークや未来に備えてV2H(※)用の空配管を備えたガレージなども用意され、次世代の暮らしに対応できる可変性の高い住まいとなつています。

(※)Vehicle to Home(ヴィークル・トゥ・ホーム)の略。電気自動車のバッテリーを、家庭用電源として使うためのシステム



お子様のプライバシーに配慮しつつ、気配を感じられるよう、格子で緩やかに分けられたドアのない2階のワークスペース(写真手前)



ご主人こだわりの折上天井は、施工があまりに難しいため、当初は設けない予定だったという



SE構法 & GX志向型住宅 モレスの「これからの住まいづくり」 についてお話しします。

これまで質の高い住まいづくりに取り組んできたモレスが、更なる進化を目指します。

その鍵となるのが「SE構法」と「GX志向型住宅」です。

モレスの住まいづくりへの想いを体現するこの二つの取り組みについて、

設計部の古谷と富田に話を聞きました。



このコーナーでは、モレスが目指す
これからの住まいについて、
つくり手の立場から
その想いや取り組みを
わかりやすくお伝えしていきます。

お客様の

意識の変化が促す 住まいの「これから」

——早速ですが、SE構法を導入するこ
とになった経緯から伺えますか？

古谷 最大の理由は、住まいの大きさを
す。モレスの住宅の基本は「在来工法でつ
くるデザイン住宅」。大開口の空間やテキキ
につながるリビングなどは特に好評ですが、
住まいが大きくなると、こういう意匠を担
保することが難しくなってくる。せつかくの



SE構法について語る古谷



GX志向型住宅を説明する富田

大開口なのに、余計な柱を入れたりする必
要があるわけです。これは構法から見直さ
なければ、ということ。たどり着いたのが
SE構法だったわけです。

——なるほど。ではGX志向型住宅の方
はいかがですか？

富田 お客様の意識の変化、特に健康
意識と環境意識の高まりですね。身体
により家、環境に優しい家を求める方がど
んどん増えている印象があります。

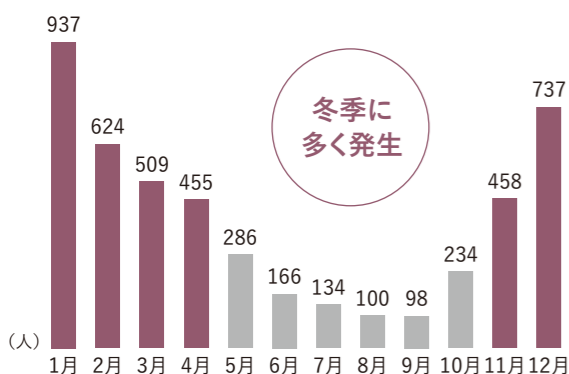
——身体により家とは、具体的には？

富田 断熱性ですね。これが高いほど、冬
も夏も快適な家になる。ところが日本の
住宅の断熱性は、先進国中で最低レベル
残念ながら、寒い冬にヒートショックで亡
くなる方もいらっしゃる。お客様からす
れば、そんなリスクの高い家には住めない
ということになりかねません。

——環境にやさしい家というのも、断熱
性能に関係しますか？

富田 ええ。断熱性の低い家はエネルギー
効率が低く、冷暖房に頼りがちになる。
その分、環境に負荷をかけてしまうわけ
です。ところが最近のお客様は、環境や住
宅性能に対する意識がすごく高い。多く
の方が、環境性能のいい家に住むことで
地球と社会に貢献したいと考えておられ
ます。こうした事情もGX志向型住宅導
入のきっかけになりました。

高齢者の「不慮の溺死及び溺水」による発生月別死者数(2019年)



※2019年 / 出典:消費者庁



さまざまな資料を交えて語り合う古谷と富田。SE
構法もGX志向型住宅も膨大なデータが基
になっている点は共通する

SE構法とGX志向型住宅について簡単にご説明します。

SE 構法

- 地震に強い耐震性能
- 大開口と大空間を実現

SE構法とは木と金物でシステム化された
地震に強い「木造ラーメン構造」のことです。

- ◎SE構法は、阪神・淡路大震災(1995年)で
多くの木造住宅が倒壊した教訓から生まれ
ました。
- ◎強さの秘密は、鉄骨造ビルやRC造マン
ションの技術を応用した木造ラーメン構造。
- ◎一棟一棟緻密な構造計算を行うことで、高
い耐震性と自由な空間構成を両立させて
います。

GX 志向型 住宅

- 高い基準の断熱・気密性
- 健康や快適を志向

優れた断熱性能と高効率の設備を導入し、
太陽光発電などの活用でZEHを大きく上回る
省エネ性能の脱炭素志向型住宅です。

- ◎GX志向型住宅とは、温室効果ガスの排出抑
制と快適生活の両立を可能にする高断熱・
高气密の住宅です。
- ◎2050年までのカーボンニュートラル実現の
切り札として、国が積極的に推進しています。
- ◎さらに近年は、ヒートショックなどを防ぐ健康
住宅としても注目を集めています。

(※)SE=Safety Engineering、GX=Green Transformationの略

「地震に強い家」と「開放的な大空間」を両立させるSE構法

具体的な話に移りましょう。まず、SE構法の特長から伺えますか？

古谷 SE構法とは、木と金物でシステム化された、地震に強い「木造ラーメン構造」のことで、柱や梁を剛接合し、強固な枠構造で荷重を支えるので、ムダな柱や壁は不要。しかも自由度の高い大空間と高い耐震性との両立が可能になる。従来の木造では不可能とされてきた9mスパン

の大開口部も実現できますよ。

耐震のカギは何ですか？

古谷 柱と梁を結ぶ独自の接合金具ですね。これが部材同士をがっちり緊結し、建物全体の強さを担保します。このおかげで耐力を確保でき、少ない壁で耐震等級3が取得できます。

実例を見たい方も多いはずですよ。

古谷 芦屋市岩園町で、当社で初めてSE構法を採用した住宅を建設中です。リビングから中庭デッキにかけての開放感、左右約4mの大型サッシの迫力など、木造ラーメン構法ならではの自由な大空間の魅力を実感していただける予定です。

SE構法の強み

① 接合部

地震の際に最初に壊れるのが接合部。SE構法は独自開発の「SE金物」と「Sボルト」によって強い接合部を実現し、耐震性を高めています。



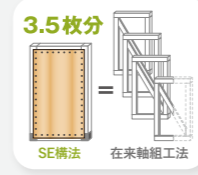
② 構造物

SE構法では、一定の強度を確保された構造用集成材を使用。平角柱と大梁で構成された「耐力フレーム」により、大開口も実現できます。



③ 耐力壁

SE構法の耐力壁は、在来工法に比べて3.5倍もの強度をもっているため、壁の量を減らし、開放的な空間をつくることができます。

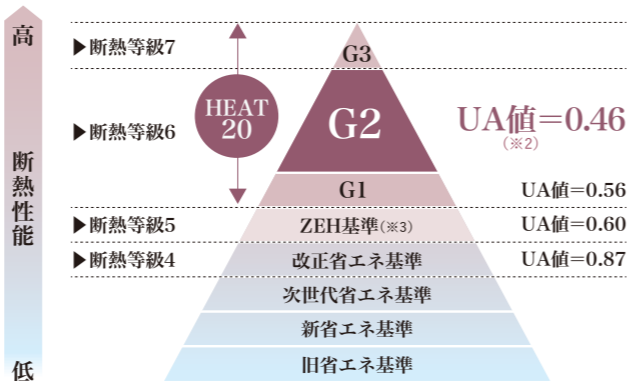


④ 構造計算

SE構法では、RC造や鉄骨造のビルと同じように一棟一棟で緻密な構造計算を行い、明確な数値で地震に対する強さを示しています。



断熱等級6は、HEAT20(※1)という基準ではG2グレードに相当し、ZEH基準を上回ります。



(※1) 大学教授や研究者・住宅専門家が作る一般社団法人「20年先を見据えた日本の高断熱住宅研究会」の略称。その断熱基準は国の断熱等級よりもはるかに高い。(※2) UA値とは住宅全体における熱の逃げやすさを示す指標で、数値が低いほど断熱性が高いことを意味し、断熱等級の目安となる。(※3) ZEH基準は、「Net Zero Energy House(ネット・ゼロ・エネルギー・ハウス)」の略称で、エネルギー消費量を実質的にゼロに近づけることを目指した住宅の基準です。

それにしても、断熱性能の話は難しい。お客様にも伝わりにくいのでは？
富田 正直、実際に体感していただく方が話が早い(笑)。その実例となるのが、神戸市東灘区森北町で建設中のモデル住宅。どこにいても快適な、ホテルのような住心地を体感していただけるほか、2台のエアコンによる全館空調システムも(

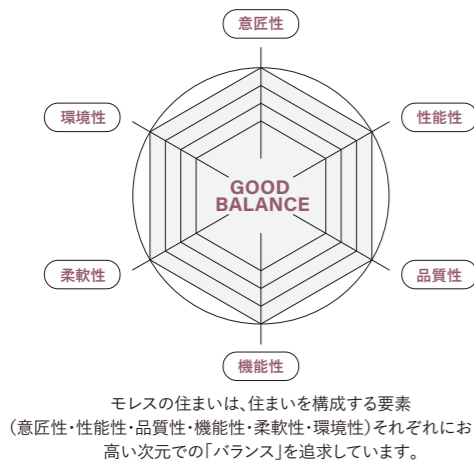
高次元でバランスのよい「いいとこ取り」ができる住まいづくり

最後に、モレスが目指すべきこれらの住まい像について伺います。

富田 お客様からすれば、デザインがよくて断熱性能や耐震性も高く、なおかつ納得できる価格の家が理想でしょう。

古谷 意匠性や性能・品質・機能性など、個々の要素が高次元で、バランスが取れている家。いい意味で「いいとこ取り」ができる家ともいえますね。

富田 今回の試みはその第一歩。その結果を踏まえ、さらに前進するつもりです。



モレスの新しいビジョンを具現化した住まいが続々登場!

SE構法

2025年11月竣工予定

SE構法を取り入れた住まいが「芦屋市岩園町プロジェクト」2号地で登場!!

SE構法ならではの開放感あふれる住まいを実感していただけます。



※内観イメージCG

GX志向型住宅

2025年10月竣工予定

GX志向型住宅の住まいが「神戸市東灘区森北町5丁目プロジェクト」3号地で登場!!

高断熱・高気密住宅ならではの心地よさを、全身で体感していただけます。

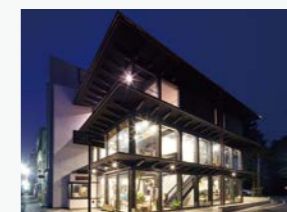


※外観イメージCG



SE構法だからできる圧倒的な大空間(参考写真)
※株式会社エヌ・シー・エヌ「テクニカルガイドブック」施工事例より転載

大地震においても倒壊ゼロのSE構法



2011年の東日本大震災の揺れに耐えた宮城県松島の「松華堂本社」

SE構法が目指しているのは、どんな大きな地震でも壊れない安全な木造住宅。その実力は、延べ30,000棟ものSE構法住宅の中で、大地震での倒壊例ゼロという実績に現れています。

※株式会社エヌ・シー・エヌ「SE構法ガイドブック」より転載

健康を守り 快適な毎日を可能にする GX志向型住宅

次はGX志向型住宅です。身体にいい家を目指すとして、具体的な目標を教えてください。

富田 冬の最低室温18℃というWHO(世界保健機関)の推奨値が目安になりますね。ちなみに日本の住宅は10~11℃ぐらい。まだまだ努力の余地があります。

具体的な方法は？

富田 屋根と壁の断熱材を厚くするのが基本ですが、それだけでは限界がある。充てん断熱と外張断熱(W断熱)にした上で、基礎にも断熱を入れ床下が冷たくなることを防ぎ、さらにすべての隙間を無くす気密施工することで、より高い断熱性能が得られます。

国の断熱等級も課題ですね。

富田 今年4月から、すべての新築住宅で国が定める等級4(省エネ基準)が義務化。5年後には等級5(ZEH基準)に引き上げられます。ただ、これで想定されている最低室温は、等級5でも10℃前後。18℃を目指すなら等級6に加えて全館空調つまり高断熱かつ高気密な家づくりが必須です。北欧では約100年の蓄積がありますが、断熱性よりも開放性を重視してきた日本の住宅はこれからです。

芦屋邸宅街のはじまりの地に描く、モレスの新たなる象徴。



シンプルなフォルムと、大開口ならではの開放感が印象的なコンセプトハウスの外観イメージ。外に対して閉じながら内にゆったりと広がる空間構成はモレスならではの



大型の水盤が涼やかな表情を見せる、玄関ポーチと駐車スペース



ゆったりした吹抜と大きな開口部が、非日常のくつろぎを演出するリビング

受け継がれてきた記憶。語り継がれる由緒。そして、これから紡がれる新たな物語。

芦屋邸宅街のはじまりの地、浜芦屋に描くのは

この地への深い敬意と、未来へのまなざしを込めた住まい。

時代を先駆け、時を超えてもお色褪せることのない価値をあなたに・・・

モレスの新たなる象徴「THE ASHIYA HOUSE」にご期待ください。

本プロジェクトの詳細は、右記お電話よりお問い合わせください

©10:00~18:00※火・水定休

0798-26-0100

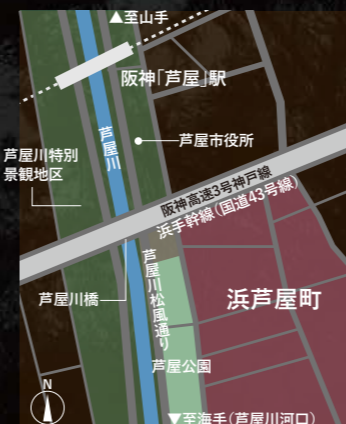


MORES®
PREMIUM
CONCEPT HOUSE

浜芦屋町プロジェクト、始動。

THE ASHIYA HOUSE

(2026年 完成・公開予定)



浜芦屋町は、いわば「芦屋邸宅街のはじまりの地」として知られ、芦屋邸宅文化の源流を今に伝えています。平安時代、歌人・在原業平が別邸を構えていたという伝承も残されるこの地は、1905年(明治38年)、阪神「芦屋」駅の開業を機に、邸宅街としての歩みを始めます。

行楽地としても名を馳せた浜芦屋には、大阪の富裕層がこぞ別荘を構えるようになり、やがて滞在から定住の地へと変わっていききました。良好な住環境と交通利便性を備えた芦屋川沿いは人気を集め、大正時代には急速に宅地化が進行。昭和初期にはその勢いが山手へと広がり、芦屋全体の住宅地形成へとつながっていったのです。

芦屋邸宅街のはじまりの地、浜芦屋町。この地は今なお、美しい景観と気品ある街並みが大切に守り継がれています。

芦屋邸宅街のはじまりの地
浜芦屋町